姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第65集

山吹遺跡発掘調査報告書

2018

姫路市教育委員会

序

姫路市内には約1,200箇所の遺跡が存在します。遺跡は私たちの祖先が残した国民の共有財産であるとともに、地域の歴史を正しく理解する上でかけがえのない貴重な文化財です。姫路市教育委員会では、これらの遺跡を保護し未来に継承するため、発掘調査を進めるとともに、現地説明会や企画展等を通じて、その成果を市民の皆様に広く周知するよう努めております。

山吹遺跡は古墳時代から奈良時代の遺跡として周知されておりますが、今回の発掘調査では、室町時代の遺構や遺物が発見され、本遺跡の様相を解明する上で新たな知見を得ることができました。ここにその成果を報告し、今後の調査・研究に資する所存です。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたり多大なご協力を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

平成30年(2018年)3月
姫路市教育委員会
教育長　中杉　隆夫

例言・凡例

1．本書は、姫路市西今宿八丁目964番1の一部他において実施した山吹遺跡の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、事業者から委託を受け姫路市教育委員会が実施した。現地調査は、姫路市埋蔵文化財センターの南憲和、玉越綾子が担当した。整理作業及び報告書の執筆・編集は南が行った。
3．発掘調査に関する写真・図面等の記録及び出土品は、姫路市埋蔵文化財センターで保管している。
4．本書で使用した座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標系Ⅴ系であり、方位は座標北を示す。標高値は、東京湾平均海水準（T.P.）を基準とした。
5．土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版 標準土色帖』に準拠した。
6．遺構は、原則としてアルファベットと数字を組み合わせた略号で表記した。略号はSK−土坑、SD−溝、SX−性格不明遺構、SP−柱穴（ピット）をあらわす。

目　次

第１章　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　第１節　調査に至る経緯・経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　第２節　山吹遺跡における既往調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
第２章　調査の結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　第１節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　第２節　遺構・遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　第３節　下層遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
第３章　総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

挿図目次

図１　調査地位置図
図２　調査区配置図
図３　周辺部の既往調査合成図

図版目次

図版１　遺構全体図・土層柱状図
図版２　SK02平面図／SK03平面・断面図／
　　　　SK04平面・断面図／SK05平面・断面・立面図
図版３　A-A´・B-B´断面図／C-C´断面図
　　　　C-C´13～16層出土土器写真
　　　　C-C´21層出土土器・サヌカイト写真
図版４　出土遺物実測図（１）
図版５　出土遺物実測図（２）
図版６　遺構写真（１）
図版７　遺構写真（２）
図版８　出土遺物写真

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯・経過

姫路市西今宿八丁目964番１の一部他において、長屋住宅等の建築工事が計画された（図１・２）。計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である山吹遺跡（県遺跡番号020160）に近接することから、事業者の依頼を受けて平成29年３月14日に試掘調査（調査番号：20160560）を実施し、溝・ピット等の遺構を確認した。これを受けた協議の結果、事業者の協力を得て工事範囲356㎡を対象に発掘調査を実施することになった。平成29年４月28日に「姫路市西今宿八丁目946番１の一部他の開発に伴う埋蔵文化財（山吹遺跡）発掘調査委託契約書」を締結し、事業を開始した。現地調査（調査番号：20170055）に要した期間は、平成29年５月９日から６月13日であった。現地調査終了後、整理作業及び発掘調査報告書の作成を行い、本書の刊行をもって事業を完了した。発掘調査開始から整理作業終了までの体制は以下のとおりである。

姫路市教育委員会
　教 育 長　中杉隆夫
　教育次長　名村哲哉
　生涯学習部
　　部　　長　岡田俊勝
　文化財課
　　課　　長　花幡和宏
　　課長補佐　大谷輝彦（調整）
　　技　　師　黒田祐介（調整）

埋蔵文化財センター
　館　　長　前田光則
　課長補佐　岡崎政俊（庶務）
　係　　長　森　恒裕（調整）
　技術主任　南　憲和（調査・整理）
　主　　事　岡本武平（庶務）
　嘱託職員　玉越綾子（調査）

第２節　山吹遺跡における既往調査

山吹遺跡では姫路市教育委員会により平成20年度に確認調査（１次調査）、21年度に確認調査（２次調査）と本発掘調査（３次調査）が行われ、溝・土坑・ピット等の遺構が検出されるとともに、奈良時代後半から平安時代前半頃の土器が出土した。また、これらの検出面より下層から羽状縄文、Ｃ字形の刺突文をもつ北白川下層式土器及び石器製作に伴うサヌカイト・凝灰岩・チャート等の剥片・チップが大量に出土したため、縄文時代前期の遺構が存在することが確認された。これらの既往調査では、上幅約2.8m、下幅約1.7mの溝SD01（本調査のSD01との混同を避けるため本書では以後、２次SD01と呼称する）が見つかっている。N-７～８°-Wの軸で直線的に50m以上延びる区画溝または灌漑用

図1　調査地位置図（S=1：20,000）

図2　調査区配置図（S=1：5,000）

の水路と推測され、出土遺物は少量で時期を決定できなかったが、奈良時代後半から平安時代前半の可能性がある(註1)。今回の調査地は、平成20・21年度調査地の南東に位置し、２次SD01の延長部の検出が想定される（図３）。

また、今回の調査地の西側約100mで行われた兵庫県教育委員会による都市計画道路山吹線に係る今宿遺跡の一連の発掘調査では、調査地の南西250mに位置する独立丘陵南麓で２次堆積した古代瓦の集積が確認されており、同じく西側約100mの地点では東西方向（N-67°-W）に走る溝の下層から７世紀後半から８世紀初頭の土器がまとまって出土している。さらに、同じく北西250mで行われた山吹遺跡の調査では、古代まで遡るとされる正方位の溝が確認されている。その後の遺構としては、調査地の西側約100mに位置する東西溝を南限とし、その北側約100mにわたる範囲に概ね14世紀代を中心にとする集落が存在したことも明らかにされている(註2)。

第２章　調査の成果

第１節　基本層序

調査区は、東から左回りに１～６区と呼称した（図版１）。調査地の基本層序は耕土（約20㎝）・灰黄褐色土等（遺物包含層・約20㎝）を経て遺構検出面に達する。遺構検出面の土層は、砂礫、黄褐色土、褐色粘質土・シルト質細砂、黄色粘質土と一定しないため、適宜断割調査によって下層の状況把握に努めた（図版１）。なお、１区南端部では遺構検出面の下に黄色粘質土～黄褐色シルト質粘土等が認められ、わずかに土器を包含していることが判った。これについては第３節で別記する。

第２節　遺構・遺物

検出した遺構は、土坑５基（SK01～05）、溝５条（SD01～05）、性格不明遺構１基（SX01）、柱穴(ピット)39基を数える（図版１）。遺構の分布状況をみると調査地の北東部や南西部ではほとんど検出されなかったが、これは耕土直下で基盤層（砂礫）が現れた範囲と一致しており、後世の地形の改変等により削平を受け滅失した可能性が高いと考えられる。遺構は調査範囲の制約から全体の規模・形状等が不明なものが多いため、主要なもののみ記述する(註3)。

１．土坑

SK01（図版１）　SD01に切られる。長径1.9m以上、短径1.6m以上を測るが、全体の形状は不明である。検出面からの深さは約1.0mを測る。埋土は浅黄色粘質土に拳大円礫を含む。遺物は平瓦・須恵器の細片が出土した。

SK02（図版１・２・３・４・６）　南北3.9m、東西1.5m以上を測り、検出面には拳大の円礫が集中していた（図版６）。検出面から基底部までの深さは約20㎝を測り、断面形は浅い逆台形状を呈する。基底部でSP37～39を検出した。遺物は須恵器椀（図版４-１）・鉢（２）、土師器鍋（３・４）、瓦質土器羽釜（５・６）、備前焼擂鉢（７）、須恵器甕（８・９）、平瓦（10・11）が出土した。このうち、１～５、７～９は礫が集中する範囲から出土したものである。

１は平高台を有し11世紀後半頃に比定される。２は口縁端部に上方への拡張がみられるが、縁帯を形成するまでには至っておらず、12世紀中葉から13世紀初頭頃のものと考えられる。３・４はいわゆる鉄かぶと形の鍋で、いずれも口縁部内面のヨコナデが強く、４は端部が内側に巻き込むように仕上げられる。５は内傾直立する口縁部をもち、細長い鍔をめぐらす。６は口縁直下に短い鍔を有すタイプで内面はヨコハケで調整される。８・９はともに口縁部が短く外反し端部は上下に肥厚する。10は『今宿遺跡Ⅰ』のJ類、11は同じくＫ３類に相当する。出土遺物には時期幅がみられるが、その下限は概ね15世紀代までと考えられる。

SK03（図版１・２・６）　長径約3.7m（推定）、短径1.7m以上を測り、形状から平面形は隅丸の方形又は長方形になる可能性がある。検出面からの深さは約20㎝を測り、断面形は浅い皿状を呈する。基底部で深さ15㎝未満の浅い小ピットを２基検出したが、SK03に伴うものかは不明である。遺物は土師器・須恵器・備前焼の細片のほか壁土が出土した。

SK04（図版２・７）　SK05の上部で検出した。長径70㎝、短径55㎝の楕円形で検出面からの深さは約10㎝を測る。断面形は皿状を呈し底部の中央部に炭が付着していた。遺物は土師器・須恵器の細片が出土した。

SK05（図版１・２・４・７）　東西1.5m以上、南北1.15mを測る石組土坑である。基底部には拳大から径40㎝大の扁平な礫が敷き詰められ、その上面の一部には炭が付着していた。検出面から礫の上面までの深さは40㎝を測る。残りのよい南壁で側石は２段確認された。石材は粗割石を主体とし、一部に河原石を使用する。大きさは長辺30～45㎝程度で、１段目を横位に配置し、その上に小振りの石を積んでいた。土坑内に転落したとみられる石もあったため、最大３

段程度まで積まれていた可能性がある。遺物は南側壁の石材間に挟まった状態で須恵器鉢（図版4-12）が出土したほか、平瓦（13）等がある。遺物が量的に少なく遺構の時期を特定するには至らなかったが、類例遺構としては、福田片岡遺跡のN3SK11(註4)、市野保中世墓(註5)が挙げられ、中世墓または火葬施設の可能性がある(註6)。

2．溝

SD04（図版1・3・5・7）　4区北部で南北7.4～11.2mにわたってにぶい黄褐色砂礫（5層）の広がりを検出した（図版3・7）ため、断割調査を行った結果、2条の溝（SD04-1・2）を確認した。SD04-1は南北5.3mを測る。埋土は、にぶい黄褐色砂礫（5層）の下ににぶい黄褐色シルト質粘土（6・7層）が存在する。SD04-2はSD04-1の20cm北で検出され、上幅0.8～1.5m（推定）、深さ30cm（基底部T.P.18.7m）を測り、断面形は椀状を呈す。遺物はSD04-1の5層から青磁碗（図版5-18）、土師器鉢（19）・羽釜(20)・壺（21）、瓦質土器羽釜（22）、備前焼擂鉢（23・24）、土師器堝（25・26）、瓦質土器甕（27）、須恵器甕（28）・壺（29）・平瓦（30・31）が出土した。

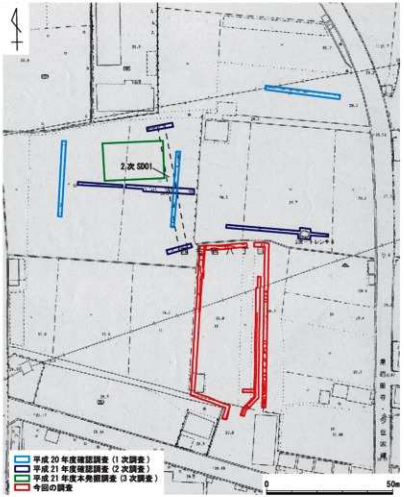


図3　周辺部の既往調査合成図（S=1:1,500）

18は無文である。19は外面の一部が被熱し赤変している。20はいわゆる播磨型とされ、体部に平行タタキの成形痕を残し、鍔は断面三角形状を呈する。概ね15世紀代のものとみられる。22は前出6と同タイプである。23は内面に10条以上の擂り目をもち、口縁端部がわずかに肥厚するタイプで14世紀中葉から末頃とみられる。24は復元口径30.8cmを測る。内面に14条の擂り目をもち、口縁部が上方へ拡張されるもので15世紀前半頃に比定される。25は復元口径22.0cmを測り、口縁部が体部から短く外反し、端部は断面三角形状につまみ出される。体部には平行タタキの成形痕を残し、頸部に強いヨコナデが凹線状にめぐる。26はいわゆる鉄かぶと形の堝で復元口径34.0cmを測る。口縁部内面が肥厚し断面三角形状を呈し、その上端面及び下端部内外面には凹線状の強いヨコナデが施される。27は復元口径26.8cmを測り、口縁部が短く外反し、端部は強いヨコナデにより凹む。肩部には綾杉状のタタキ目がみられる。30・31の平瓦の凸面は、30は成形痕が消され、31は縄タタキ痕を明瞭に残す。

これらの出土遺物の年代観から、SD04-1は概ね15世紀代に埋没したと考えられる(註7)。SD04-2からは土師器細片が出土したが、時期は不明である。

SD05（図版1・5）　上幅25～30cm、検出面からの深さ約15cmを測る東西方向の溝である。断面形は椀形を呈す。遺物は土師器皿（図版5-32）が出土した。32は内面及び外面上半部にヨコナデが施され口縁端部が外反する。

3．性格不明遺構

SX01（図版1・4・6）　長辺約2.5m、短辺1.5m以上、厚さは最大10cmを測る不定形の焼土塊である。焼土を篩にかけたところ、壁土（一部に木舞の痕跡が残る）1,007g、土師器皿（図版4-14）が出土した。14は底部から短く湾曲し口縁部に至る。

4．柱穴

SP05から土師器皿（図版4-15・16）、**SP28**から青磁碗（17）が出土した。15は外反気味に立ち上がり、口縁端部

は肥厚し丸くおさめる。16は厚みが異なるが、前出14と同じタイプの可能性がある。17は龍泉窯系無文碗とみられ高台外面は施釉されない。

５．遺物包含層から出土した遺物

灰黄褐色土（図版１・４層）及びにぶい黄褐色シルト質粘土（図版３-２・４層）から出土した。図版５－33は前出16と同類の土師器皿である。34は備前焼擂鉢で内面に８条の擂り目をもつ。口縁部は上方へ顕著に拡張されるもので15世紀前半に比定される。35は龍泉窯系青磁碗で鎬蓮弁文をもつ。36は軒丸瓦の外縁部で、外縁幅2.0㎝、外縁高1.5㎝を測る。丸瓦との接合面で剥離していた。37は平瓦で『今宿遺跡Ⅰ』のＫ９類に相当する。

第３節　下層遺構

調査地の南東部（１区南端）では検出面の下層に黄褐色粘質土（図版３-２・21層）・明黄褐色粘質土（22層）が堆積しており、黄褐色粘質土（21層）からは黒褐色から褐灰色を呈す土器の細片及びサヌカイトの剥片が出土した。このため、下層遺構の有無を確認するため、断割調査を北に拡張した。この結果、黄褐色粘質土（21層）・明黄褐色粘質土（22層）が北に向かって下降するに伴い、その上位に黄褐色砂質土等（13～16層）がラミナ状に堆積していることが判明した。13～16層からも褐灰色からにぶい黄褐色を呈す土器の細片が出土した。これらの土器はローリングを受けており、河川の営力により２次的に混入したものみられる。下層から出土した土器は、胎土・色調等から縄文土器の可能性があるが、文様・条痕等は観察されず断定することはできなかった。

第３章　総括

既往調査を踏まえると今回の調査では、古代の遺構・遺物が検出されると予想したが、実際には中世の遺構・遺物が主体であり、古代と断定できる遺構は見つからなかった。２次SD01の延長部と想定される位置ではSD04-1及びSD04-2を検出したが、SD04-1が概ね15世紀代に埋没することは明らかになったものの、確認できた範囲が狭小であったことから、その方向軸・掘削時期等を含めて２次SD01と一連の遺構になるかどうかについて、結論づけることはできなかった。２次SD01とSD04-1・2が連続して直線的に延びる場合には、５区または２－１区での検出が推測されたため、これらの箇所を断ち割ったが、その可能性を有する遺構は確認できなかった。このため、溝は方向を変えて延びるか、調査地内で収束する可能性が高い。

出土した遺物は、瓦を除くと遺物包含層を含めて中世のものが主体であった。なかでもSK02やSD04-1は概ね15世紀代を下限とする。調査地の西側100ｍの地点で行われた今宿遺跡・山吹遺跡の一連の発掘調査では、15世紀代までは土師器皿・鍋・羽釜、瓦質土器羽釜、備前焼擂鉢など遺物の組成に一定のバリエーションが認められるが、16世紀代は土師器皿がみられるのみであり(註8)、量的にも減少するようである。この理由については、今後の周辺部の調査例の増加を待って検討することとしたい。

瓦は平瓦が中心で『今宿遺跡Ⅰ』のＪ類・Ｋ３類・Ｋ９類がみられ、古代に帰属すると考えられる。しかし、これらの瓦は中世土器が投棄された中に混じって出土したものであった。

遺構面の下層から縄文土器の可能性のある遺物を包含する黄褐色粘質土層を確認したが、今回の調査成果からその性格・時期等を特定することはできなかった。

註１　姫路市埋蔵文化財センター『発掘調査速報展2010』 2010年

註２　兵庫県教育委員会『今宿遺跡Ⅰ』兵庫県文化財調査報告第333冊　2008年、兵庫県教育委員会『今宿遺跡Ⅱ・山吹遺跡』兵庫県文化財調査報告第332冊　2008年、兵庫県教育委員会『今宿遺跡Ⅲ』兵庫県文化財調査報告第395冊　2011年

註３　遺物の年代観は以下の文献を参考にした。
須恵器は、森田稔「中世須恵器」『概説 中世土器・陶磁器』 真陽社 1995年、土師器鍋・羽釜は、岡田章一・長谷川眞「兵庫津遺跡出土の土製煮炊具」「兵庫県埋蔵文化財研究紀要 第３号」兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 2003年、備前焼は、乗岡実「備前焼擂鉢の編年について」『第３回中近世備前焼研究会』発表要旨 中近世備前焼研究会 2000年、青磁は、山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世土器・陶磁器』 真陽社 1995年、平瓦の分類は、兵庫県教育委員会『今宿遺跡Ⅰ』兵庫県文化財調査報告第333冊　2008年による。

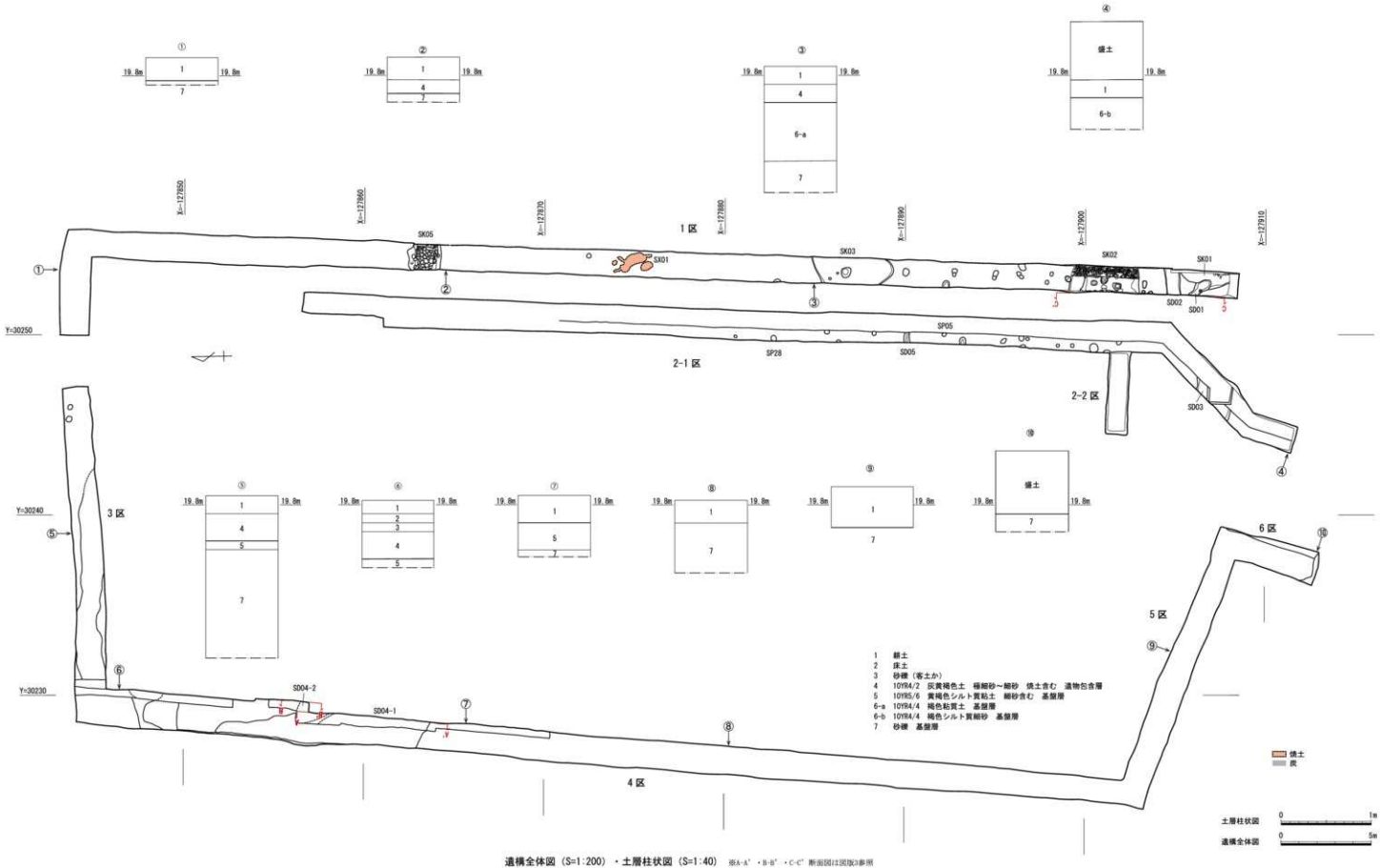
註４　兵庫県教育委員会『福田片岡遺跡』兵庫県文化財調査報告書第94冊　1991年

註５　中浜久喜「市野保発見の中世墓」『香山－縄文遺跡と古代寺院跡－』新宮町教育委員会　1987年

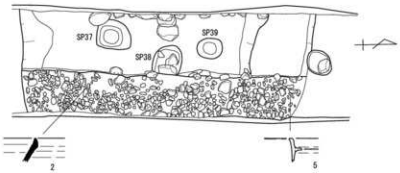
註６　兵庫県まちづくり技術センターの西口圭介氏よりご教示を得た。

註７　遺物の年代観について、兵庫県立考古博物館の山上雅弘氏よりご教示を得た。

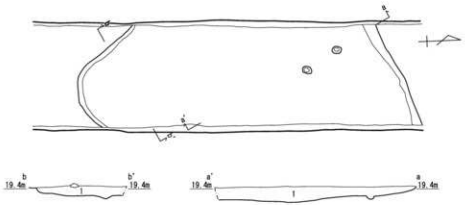
註８　兵庫県教育委員会『今宿遺跡Ⅱ・山吹遺跡』兵庫県文化財調査報告第332冊　2008年



遺構全体図（S=1:200）・土層柱状図（S=1:40） ※A-A'・B-B'・C-C' 断面図は図版3参照

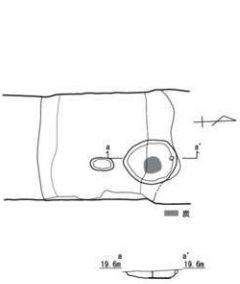


1　SK02平面図（S=1:50）　※断面図は図版 3C-C´断面参照



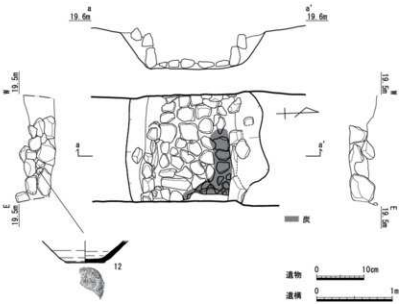
1　10YR4/2　灰黄褐色シルト質粘土　拳大円礫・焼土ブロック・炭含む

2　SK03平面・断面図（S=1:50）

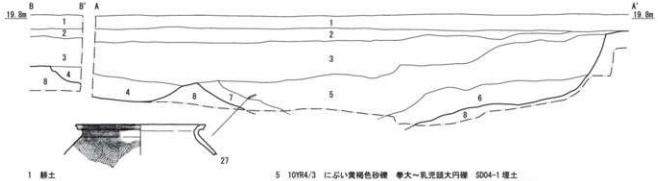


1　10YR4/4　褐色シルト質細砂　径 5 cm大円礫含む

3　SK04　平面・断面図（S=1:50）



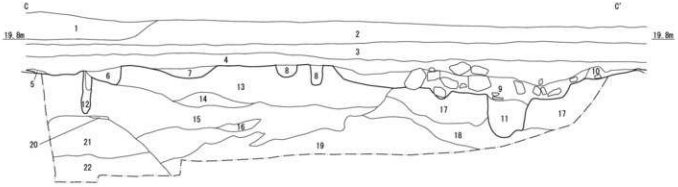
4　SK05　平面・断面・立面図（S=1:50）



1 赤土
2 床土
3 10YR4/2 灰黄褐色土 極細砂～細砂 焼土含む 遺物包含層
4 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 焼土含む SD04-2 埋土
5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 拳大～乳児頭大円礫 SD04-1 埋土
6 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 径３cm大円礫含む SD04-1 埋土
7 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土 SD04-1 埋土
8 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 細砂含む 基盤層

遺物 0 10cm
遺構 0 1m

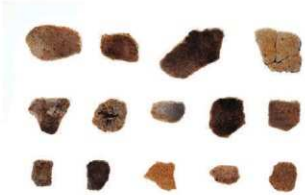
1 A-A' ・B-B' 断面図 (S=1:50) ※断面の位置は図版１参照



1 盛土
2 赤土
3 10YR4/2 灰黄褐色土 極細砂～細砂 焼土含む 遺物包含層
4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 焼土含む
5 10YR5/6 黄色粘質土 にぶい黄褐色土含む
6 2.5Y5/4 黄褐色シルト質細砂 SD01 埋土
7 2.5Y5/4 黄褐色シルト質細砂 黄色土ブロック含む SD02 埋土
8 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 焼土含む
9 2.5Y7/4 浅黄色粘質土 にぶい黄褐色土ブロック含む SK02 埋土
10 10YR4/4 褐色シルト質粘土 細砂含む
11 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質細砂 浅黄色粘質土ブロック含む
12 2.5Y5/3 黄褐色シルト質粘土
13 2.5Y5/6 黄褐色砂質土 細砂～中砂
14 2.5Y5/6 黄褐色シルト質細砂 炭・小礫含む
15 2.5Y8/6～2.5Y5/4 黄色粘質土～黄褐色シルト質粘土
16 2.5Y5/6 黄褐色砂質土 細砂～中砂
17 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト
18 2.5Y5/4 黄褐色シルト質粘土
19 2.5Y5/6 黄褐色砂質土 細砂～中砂
20 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト
21 2.5Y5/3 黄褐色粘質土 径２～３cm大円礫含む
22 10YR7/6 明黄褐色粘質土

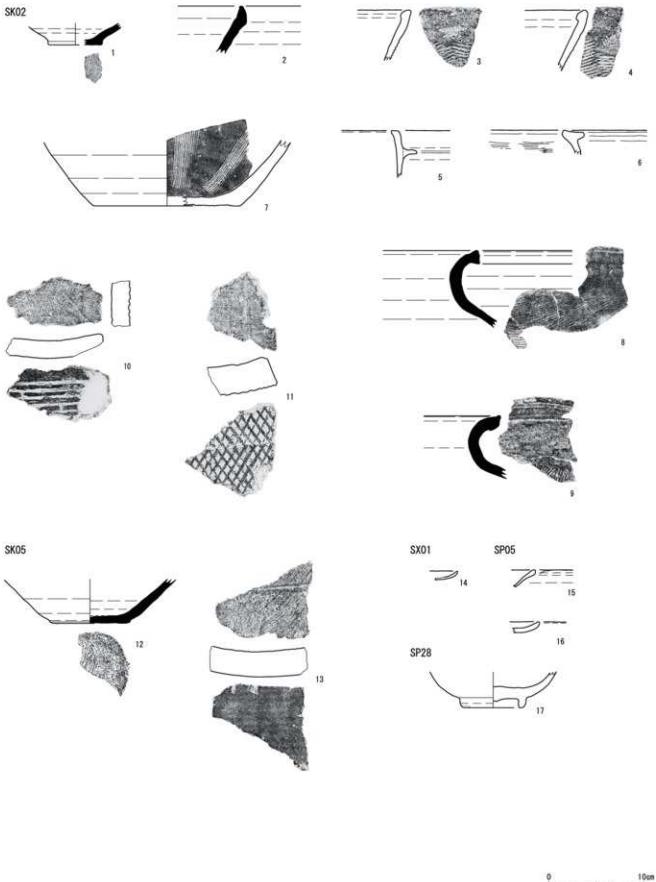
0 1m

2 C-C' 断面図 (S=1:50) ※断面の位置は図版１参照



C-C' 13～16層出土土器写真

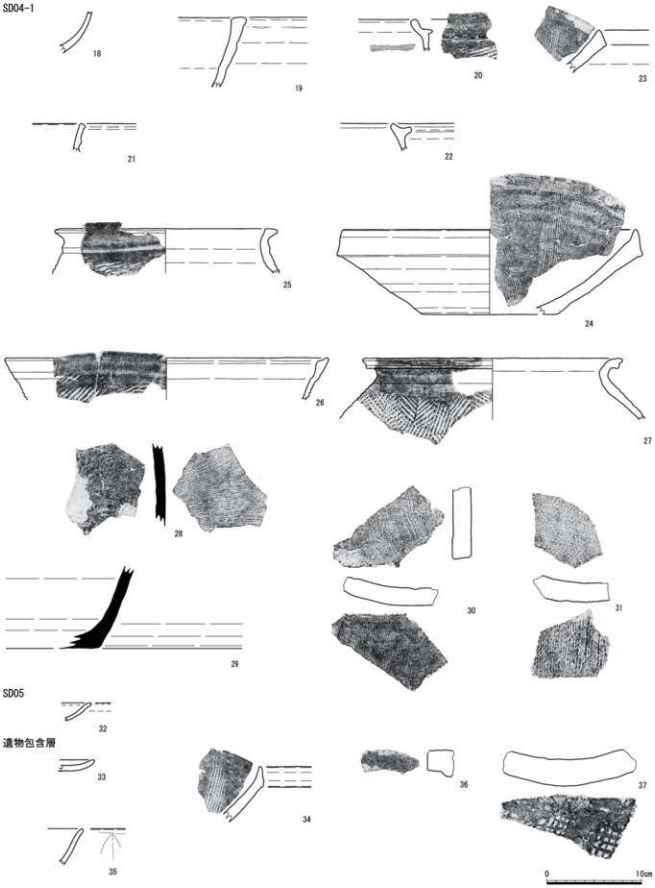
C-C' 21層出土土器・サヌカイト写真


SK02
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
SK05
12
13
SX01
14
SP05
15
16
SP28
17
0
10cm

出土遺物実測図（1）

図版 5

SD04-1



出土遺物実測図（2）

調査地と高岳神社（南東から）

SK02 検出状況（北から）

SK02（北から）

SK03（南東から）

SX01（南東から）

下層遺構の確認調査 C-C′ 断面（南東から）

遺構写真（1）

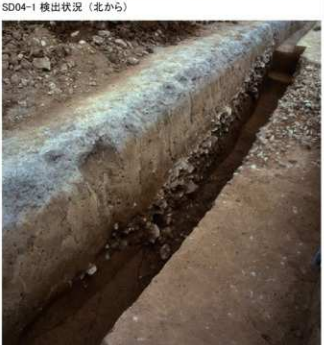
SK04（西から）

SK05（西から）

SD04-1 検出状況（北から）

SK05 南側壁（北から）

SK05 北側壁（南から）

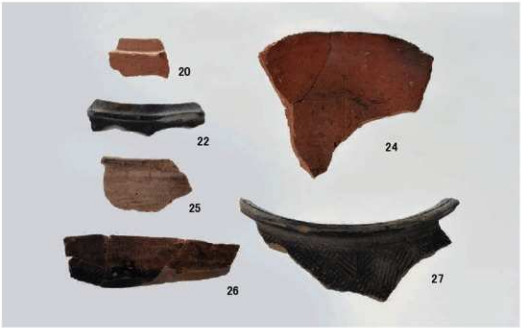


SD04-1 断面（北西から）

SD04-2 断面（北西から）

遺構写真（2）

SK02



SD04-1

SK05

SP28

出土遺物写真

報告書抄録

ふりがな	やまぶきいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	山吹遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第65集
編著者名	南　憲和
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター
所在地	〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
発行年月日	平成30年（2018年）3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	356 ㎡
山吹遺跡（やまぶきいせき）	姫路市西今宿八丁目964番1の一部他	28201	020160	34°50′48″	134°39′50″	2017.5.9～2017.6.13	調査原因	住宅建築
							調査番号	2017055

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
山吹遺跡	集落跡	中世	溝 石組土坑 土坑 柱穴（ピット）	須恵器・土師器・瓦質土器・備前焼・青磁・瓦

要約	山吹遺跡は縄文時代から中世にわたる遺跡である。 15世紀代に埋没する溝、中世墓または火葬施設の可能性のある石組土坑を検出した。 出土遺物は瓦を除くと遺物包含層を含めて中世のものが主体であった。瓦は古代のもので近接する今宿遺跡の既往調査で出土した平瓦と同類のものが出土した。 下層で縄文土器の可能性のある土器を包含する黄褐色粘質土層を確認した。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第65集

山吹遺跡跡発掘調査報告書

平成30年（2018年）3月31日　発行

編　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079) 252-3950
発　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目1番地
印刷・製本　内海印刷株式会社
〒670-0808　兵庫県姫路市白国五丁目8-4